

身近な応用物理の世界



学会ってどんなところ？

学会とは、大学や企業の研究者が研究分野ごとに集まっている組織です。年に数回研究成果を発表する会を開いたり、若手の勉強会を行うなど、所属組織をまたいで同じ研究分野の専門家と議論することのできる場です。物理系、化学系、生物系・・・といった今回参加している理系分野はもちろん、文科系の分野にもたくさん組織されています。数ある学会の中で、応用物理学会は、複数の分野にまたがった領域が多いこともあり、実際の製品開発に役立つ発表が聞ける・できる場となっています。

応用物理って？

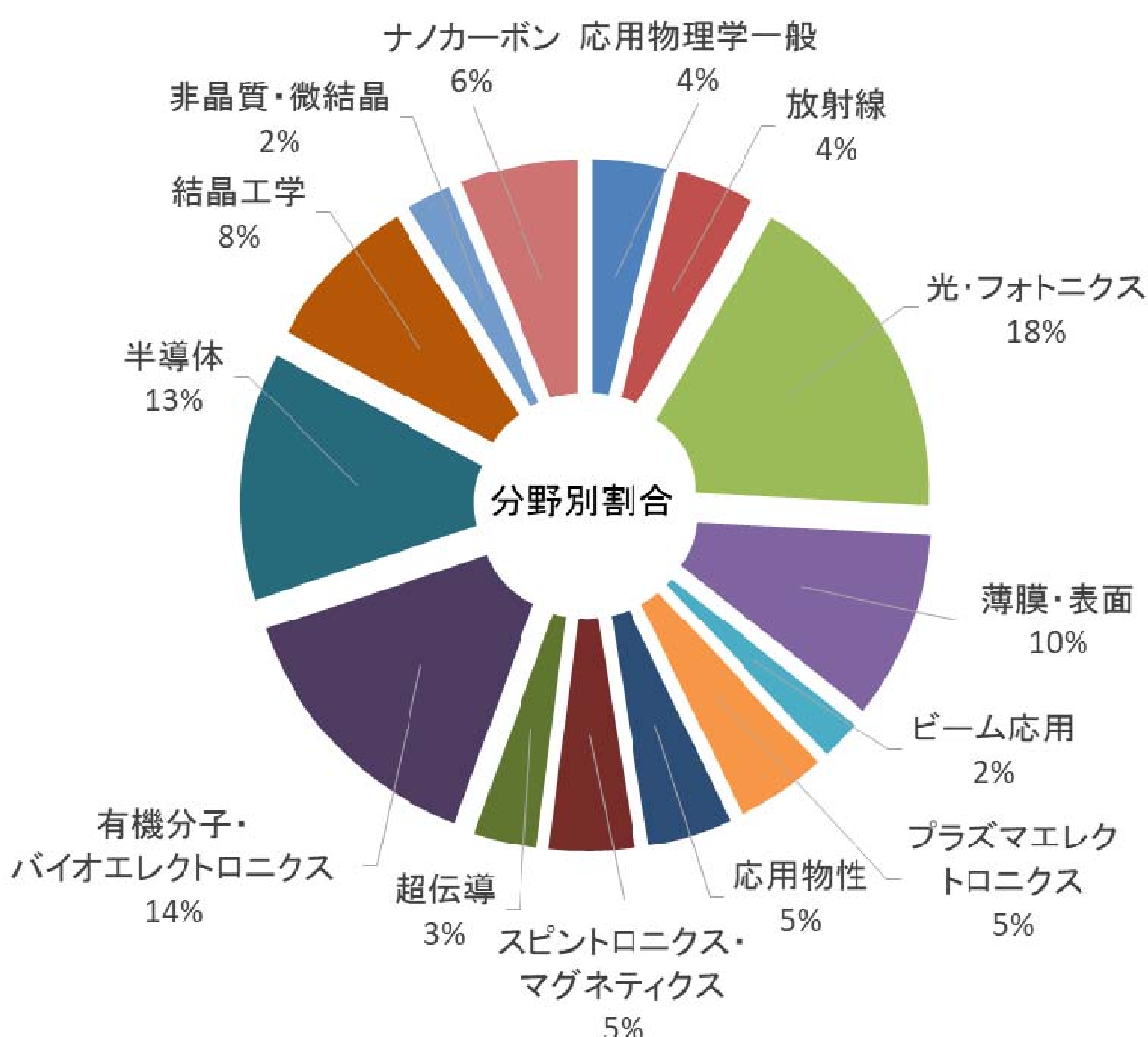
応用物理学とは、物理学をベースに、理学と工学の境界領域をカバーするきわめて広い分野を対象とした技術・学問領域です。高温超伝導や青色発光ダイオードなどの近年の重要な成果は、応用物理学会を中心としたコミュニティから生まれました。

物理ができないとダメ？

応用物理学は研究範囲が様々な分野にまたがる学問です。化学や電気、材料など異なるバックグラウンドを持った多くの会員が、この分野で活躍しています。物理はもちろん重要ですが、いろいろなことに興味を持って、勉強して身につけておくことが大事だと思います。

女性はいるの？

応用物理学の会員の現在の女性比率は、6%程度と決して高くはありませんが、多くの女性がこの分野で活躍しています。また、応用物理学会は男女共同参画にもっとも熱心に取り組んでいる学会として知られています。女性研究者・技術者の活躍する舞台はこれからますます広がっていくでしょう。



わたしたち男女共同参画委員会とは

老若男女を問わず、誰でも専門性を活かして貢献できる社会の構築を目標としています。男性6名、女性6名の委員とアドバイザーで、幅広く活動しています。これまでの活動：
 ・シンポジウム開催「ワーク・アンド・ライフ・バランスを考える」「応用物理分野で活躍する女性達」「科学技術の未来に向けたダイバーシティ推進～男女・文理・職種・国籍の観点から～」など
 ・学術講演会での託児室の設置
 ・応物女子会の開催 etc...

